

- 一 日 時 令和*年*月*日（*曜日）第*限（50分）
- 二 学 級 第一学年*組（*名）
- 三 単元名 論理的な文章構成を用いて、自分の考えを論述しよう
- 四 単元の目標
 - (1) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。（「知識及び技能」(1)のオ）
 - (2) 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。（「思考力、判断力、表現力等」B「書くこと」(1)のイ）
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。（学びに向かう力、人間性等）

ポイント

- (1) 「知識及び技能」の目標 (2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標
 - ↓ (1) (2) については、基本的に指導事項の文末を「できる。」として示す。
 - (3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標
 - ↓ (3) については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値」他者や社会に関わろうとする。」までを示す。
- ※単元の目標について、(1)、(2)を二項目設定することができるが、(2)は同一領域の指導事項に限る。領域を超えて設定することはできない。

五 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動

論理的な文章や実用的な文章を読み、本文の文章構成や論理展開を使って、自分の意見や考えを論述する活動。（「思考力、判断力、表現力等」B「書くこと」(2)のアを参照）
- (2) 教材 山崎正和「水の東西」（『現代の国語』**出版）

ポイント

単元の目標とする資質・能力の育成を図るに適した言語活動とする。
 学習指導要領の言語活動を参考にしても、また、授業者が作成してもよい。
 学習指導要領の言語活動を参考にした場合は明示し、アレンジを加える場合は明示した上で「参照」とし、作成した場合は付記しない。

六 単元の評価規準

- (1) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。（知識・技能）
- (2) 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。（思考・判断・表現）
- (3) 作品の構成や論理展開を使って自分の意見を論述する活動を通して、積極的に自分の文章構成や展開を工夫したり、思いや考えを広げたり深めたりしながら自らの学習を調整しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

<p>次 時間</p>	<p>学 習 活 動</p>	<p>言語活動に関する指導上の留意点 *生徒への支援の手だて</p>	<p>評価上の留意点 ◇観点 □点検・確認 ■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて</p>
<p>・「水の東西」を各自で通読する。 ・ワークシートIを用い、それぞれの文章で対比されている内容を二つの項</p>	<p>・読みながら、難解な語句や表現に印を付けさせ、後から辞書等で確認させる。 ・何と何が対比されているのか、大まかに把握させる。 ・特徴的な表現を抜き出させ</p>	<p>◇「記述の点検」(ノート) *読めない漢字や意味が分からない語句をチェックさせ、辞書で調べさせたり、解説したりする。</p>	

八 単元の指導計画（配当時間 4 時間）

- (1) 単元観
論理的な文章の記述方法として、二項対立という展開の仕方を学習し、自分の意見や考えを表現する方法を習得する単元である。小論文を書く際に必要な論理展開を学ぶことができる。
- (2) 学習者観
自分の意見を論述する際に、文章構成や論理の展開を工夫し、読み手の理解を得られるような工夫をする力に乏しい。評論の基本的な展開方法を学び、自分の考えを主張する活動を通して、文章構成や展開を工夫する力を養いたい。
- (3) 教材観
東西の水の比較から出発し、それぞれの精神文化論に発展する評論である。対比が明確な文章であるため、二項対立という評論の基本的構成を理解させて、更に自らも二項対立の文章を書きたいと意欲をもたせることができる。

七 指導観

ポイント

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」の指導事項の文末を「くしている」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「くしている」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方
以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫することが考えられる。文末は「くしようとしている」とする。なお、()内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。また、①く④は固定的な順序を示すものではないこと、④については、言語活動自体を評価するものではないことに留意する必要がある。

① 粘り強さ（積極的に、進んで、粘り強く等）
② 自らの学習の調整（学習の見通しをもつて、学習課題に沿って、これまでの学習を生かして等）
③ 他の二観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
④ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

<p>第3次 1時間</p>	<p>第2次 1時間</p>	<p>第1次 2時間</p>
<ul style="list-style-type: none"> 生徒相互で主張文を読み合う。 相互評価表を用いて互いの主張文を確認する。 推敲し、再度主張文を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートⅢに自分の主張を対比の形式で書き出す。 ペアでワークシートを確認する。 ワークシートⅢを用いて、自分の主張したい内容の構成を書く。 主張文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 目に分類する。 分類した内容をペアで確認する。 ワークシートⅠを用い、二項対立の効果について考え、ペアで話し合う。 日本人の感性の特徴を西洋との比較で捉え、ノートにまとめる。 ワークシートⅡを用い「水の東西」の構成を確認し、ペアで話し合う。
<ul style="list-style-type: none"> 論理構成が的確になされていることに注意させる。 相互評価表などを基に再考させ、粘り強く取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主張に効果的な二項対立となるよう、書き出す事柄を調べさせる。 ペアで対比になっているか、確認させる。 文章の構成を説得力のある展開になるよう考えさせる。 接続詞の使い方留意させ、二項対立を効果的に用いた論述となるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対比された項目が文中のどこにあるかを確認させる。 自分の主張をより明確にする技法として、二項対立があることに気付かせる。 ペアの助言をもらいながらワークシートを完成させる。 接続詞や指示語に注目させる。 二項対立という視点から段落の構成を把握させる。 小見出しを付けることで再度本文の内容を確認させる。 二項対立は単に二つの内容を並べたものではなく、筆者の主張をより明確にするための方法であることを理解させる。
<ul style="list-style-type: none"> 相互評価表から、推敲するポイントを見つけることができるように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 回収したワークシートの記述が不十分なものについては、再度説明したり、詳細なコメントを書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> *「東」と「西」の対比に注目させる。 ◇(知) □「記述の確認」(ワークシートⅡ) *接続詞や指示語に注目させ、鹿おどしと噴水のそれぞれの特徴を整理させる。 *ペアの助言をもらいながらワークシートを完成させる。

ポイント

「評価上の留意点」の◇観点は、(知)(思)(態)と表記する。
 (知) || 知識・技能 (思) || 思考・判断・表現
 (態) || 主体的に学習に取り組む態度 を表す。
 また評価方法については、□点検・確認 ■分析と表記する。
 □点検・確認 || 指導に生かす評価 ■分析 || 記録に残す評価 を表す。

〈本時に言語活動がない場合の学習指導案〉※ペーパーテスト等で評価する。

九 本時の具体的な目標

文章の効果的な組み立て方や接続の仕方に着目し、論の進め方や内容の推移等の展開を理解することができるとができる。

十 本時の具体的な評価規準

文章の効果的な組み立て方や接続の仕方に着目し、論の進め方や内容の推移等の展開を理解している。

十一 本時（全4時間中の1時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	・ 本時の学習内容を 知る。	①単元の目標と言語活動について確認する。	①単元の目標は論理的な文章を書くことにあることを理解させる。
展開 (40分)	・ 筆者の主張をまとめる。 ・ 二項対立の役割を確認する。	②「水の東西」を各自で辞書を引きながら通読する。 ③ワークシートIを用い、本文で対比されている内容を二つの項目に分類する。 ④ワークシートをペアで確認し、相違点や気付いたことについて話し合う。 ⑤ペアワーク後、新たに気付いた点を赤で書き加える。	②読みながら、難解な語句や表現に印を付けさせ、後から辞書等で確認させる。 ③書き出し、整理することで、二項対立の論理展開を理解させる。 □ 机間指導を行い、「記述の点検」により評価する。
終結 (5分)	・ 本時の内容を振り返る。 ・ 次時の内容を知る。	⑥リフレクションカードを記入する。	⑥本時の目標に即した活動ができなかったか、また、その達成度について振り返って記述させる。

十二 御高評

〈本時に言語活動がある場合の学習指導案〉※ループリックで評価する。

九 本時の具体的な目標

二項対立を用いて、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫した主張文を書くことができる。

十 本時の具体的な評価規準

二項対立を用いて、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫した主張文を書いていく。

十一 本時（全4時間中の4時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点

資料 1

十三 御高評

<p>観点</p> <p>二項対立の論理展開を用いて、自分の主張を記述している。(思考・判断・表現)</p>	<p>A</p> <p>二項対立を効果的に用いた上で、読み手の理解が得られるよう、論理の校正に留意して説得力のある主張を記述している。</p>	<p>B</p> <p>二項対立を用いて読み手の理解が得られるよう、自分の主張を記述している。</p>	<p>C</p> <p>二つの項目を立てて記述し</p>
--	---	---	------------------------------

十二 ルーブリック (主張文の作成)

<p>終結 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の内容を振り返る。 ・ 次時の内容を知る。 	<p>⑤ リフレクションカードを記入する。</p> <p>⑥ 新しい単元に入ることを確認する。</p>	<p>⑤ 本時の目標に即した活動ができなかったか、またその達成度について振り返って記述させる。</p> <p>■ 主張文を回収し、ルーブリックを用いて「記述の分析」により評価する。</p>
<p>展開 (40分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主張文を推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ ペアの評価を参考にして推敲する。 ・ 主張文を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 相互評価表などを基に再考させ、粘り強く取り組ませる。
<p>導入 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 単元の目標と言語活動について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 二項対立を使った論理的な文章を書くことを理解させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで主張文を評価し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ② 生徒相互で主張文を読み合う。 ③ 相互評価表を用いて互いの主張文を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 相手の主張文について相互評価表を基にしながら論理的にアドバイスするように指導する。 	